

酒田で広がる 食育・地産地消の取組み

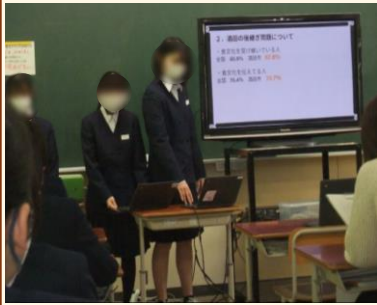
市内では毎年、様々な団体等により食育・地産地消に関する活動が行われています。今回は令和6年度に市内中学校で行われた特色ある活動をご紹介します。

酒田の食育・地産地消を考える 中学生が市への提言

市の施策について調べ、地域をより良くするための提言を行う授業が実施されました。

食育や地産地消に関心を持った生徒たちは提言のテーマに合わせ、市の担当者への聞き取りや、米粉と小麦粉で作ったケーキの比較、野菜摂取量増加のためのポスター制作など、実際に調べ、作り、表現する活動を行い、これらを通じて得た知識を基に、市担当者へ課題解決に向けた提言を行いました。

生徒たちが自分を取り巻く食育や地産地消の取組みを深く理解し、より良くするために考える力を養うことができる取組みです。



生徒が市担当者に提言

解決策1：どう共食の機会を増やすのか

学区のコミセンを利用する
対象…小中学生 おじいちゃん おばあちゃん
頻度…週に2~3回 平日の夕食
料金…300円~500円
送り迎え…親の送迎がいらない

提言① ポスターの掲示

野菜の摂取を推奨するポスターを市役所や市内のスーパーに掲示してもらう

ポスターの内容は野菜摂取の現状、野菜から得られる効果・栄養素についてなどが書かれています。掲示してもらうお店は学区内のお店です。

提言内容（抜粋）

自分の考えた献立が給食に!? 給食コンクール

「私の考える健康給食」をテーマに、2年生が家庭科での学習を生かし、保護者の協力を得て献立を考え、調理し、完成した料理を写真に撮って提出します。

応募された献立は、テーマやコスト、栄養価、旬の食材の活用などの観点で健康委員会の3年生が審査し、優秀作品は実際に学校給食として提供されます。

本取組みは、家庭との連携のもとで行われ、献立を考える生徒、審査を担う生徒、そして味わう全校生徒が、楽しみながら「健康的な食事」への理解を深める機会となっています。

【おかずの名称】 豚肉でつくったことわざの お餅めし	【材料】(2人分) 豚バラ肉-200g しごこ餅-100g さつまいも-120g(50g) 鶏胸肉-100g 片栗粉-1大匙 お好みで油-大匙1	【おかずの名称】 白濁と人参の お粥	【材料】(2人分) 白米-1/8杯(約50g) 鶏皮-1/8杯(約50g) 人参-1/4杯(約50g) ごま油-小さじ2 醤油-小さじ1/2 鶏がらスープ-小さじ1/4	【おかずの名称】 お餅を入りにんじん汁	【材料】(2人分) お餅-50g 鶏皮-50g 人参-1/8杯 1/4杯 鶏がらスープ-1杯 お好みで油-大匙1	(工夫したところ、特徴など) ・料理に冬向けの食材をたくさん使い、野菜を多くしたこと。 ・主菜を作る時にしごこ餅を使い、加熱の時間を省いたこと。(しごこ餅はフライパン) ・すいとんは一口大でスペースを省いたから、くっつかないように入れること。 ・副菜の野菜はさつまいもで水で茹でることで、シャキシャキになるようにしたこと。 ・鶏がらスープの量はお肉の量を調味料として入れることで味をまろやかにしたこと。
----------------------------------	--	--------------------------	--	------------------------	--	--

中学生が書いた献立とそのアピールポイント



採用された献立

- ・ごはん
- ・豚肉と根菜の甘酢炒め
- ・旬の野菜の和え物
- ・すいとん汁
- ・牛乳

「困った人を助けたい」 生徒会主導でフードドライブ

生徒会執行部が中心となり、未開封で賞味期限内の食品を集め、必要な方々に無償で寄付をするフードドライブを行いました。本活動は、食品ロスの削減と食支援(SDGs)につながる取組みです。

生徒たちは学区内の浜田、泉、富士見の3小学校を訪問し、レトルト食品や缶詰、菓子類など、多くの食料品を集め、酒田市福祉協議会に贈呈しました。

本活動は、食を大切にする意識を育むとともに、社会課題への理解を深め、地域を巻き込みながら主体的に行動する力の育成につながっています。



贈呈する生徒たち



集まった食料品

編集後記

提言やフードドライブ、献立づくりなど、中学生の皆さんが実践的に取り組んでいる姿が印象的です。

食は日常に身近でありながら、生涯を通して向き合っていく大切なテーマです。そうした「食」をめぐる取組みが、校内にとどまらず、家庭や地域、行政へと広がっており、本市の食育推進にも着実な波及効果をもたらすものと感じています。

また、取組みが実現している背景には、中学生の主体的な挑戦を受け止め、温かく後押しする周囲の支えがあります。こうした支えのもとで育まれる活動は本市の食育を確実に前進させるものであり、今後のさらなる発展が期待されます。

